

第8回横浜トリエンナーレとの連携により象の鼻テラスで開催する2つのアートプログラム!

「ハイヌウェレの彫像」久保寛子

開催日時: 2024年4月13日(土) - 29日(月・祝) | 会場: 象の鼻パーク

ポート・ジャーニー・プロジェクト

「7 SEEDS -COMMUNICATION UNDER TREES- 展」

開催日時: 2024年5月10日(金) - 6月9日(日) | 会場: 象の鼻テラス

象の鼻テラスでは、第8回横浜トリエンナーレのテーマ「野草」を踏まえ地域の文化・芸術活動拠点が展開する展示やアートプログラム「アートもりもり!」の一環として、2つの展覧会を実施します。両展覧会でご紹介するのは、現代社会が抱える深刻な課題に対し作家が真摯に向き合い見出した表現であり、未来に対し前向きな姿勢で行動する視点です。この機会にぜひ取材掲載のご検討をお願い致します。

[1] ハイヌウェレの彫像 久保寛子

作品名の「ハイヌウェレ」とはインドネシアの神話に登場する女神で、命を奪われバラバラにされた遺体の断片から食物が生まれたとされる食物起源神話です。久保は、先史芸術や民族芸術、文化人類学の学説の研究をベースに、身の回りの素材を用いて彫刻作品を制作する作家であるが、作品を構想していた2020年、世界が新型コロナウイルスの脅威に晒され始め、社会や人類の未来に不安を感じるようになったことから、自身の創作への関心がより根源的なものへ向かい、各地の古代神話や伝承に潜む人間の手の及ばない自然や運命に対する畏怖の念や祈りのかたちに創作のヒントを求めたといいます。作品の表面には、人類の創作活動の根源的な素材であり、現代においては異常気象を想起させる「土」がつかわれています。今回作品への理解を深める試みとして、表面を土で塗り固める作業をワークショップにし多くの人々と協働で行います。また29日(月・祝)には、神話学が専門の平藤喜久子を招きアーティストトークを実施します。



《ハイヌウェレの彫像》(2020), 久保寛子

開催概要

開催日時 2024年4月13日(土) - 4月29日(月・祝) 10:00-18:00

※13日(土)・14日(日)は公開制作/イベントの詳細は資料2枚目をご覧ください。

会場 象の鼻パーク (横浜市中区海岸通1丁目)

主催 象の鼻テラス、横浜トリエンナーレ組織委員会

[2] PORT JOURNEYS ポート・ジャーニー・プロジェクト

「7 SEEDS -COMMUNICATION UNDER TREES- 展」

2つ目にご紹介するのは、象の鼻テラスが推進する国際交流事業「ポート・ジャーニー・プロジェクト」によるグループ展「7 SEEDS -COMMUNICATION UNDER TREES-」です。本展覧会は、ポート・ジャーニーの主要メンバーの一人で、企画・ディレクションを担当するミハエル・クレス (ハンブルク/ドイツ)のもと、世界規模で深刻化する環境問題に、世界が手を取り合い前向きな姿勢で向き合うことをメッセージに込め展開します。クレスは本展に向け、地球を未来に繋ぐ「7つのメソッド」を私たちに投げかけてくれました。このメソッドを手掛かりに”今”できる行動のアイデア募集を、ポート・ジャーニーに参加するアーティスト、クリエイターのコミュニティに自由な表現方法で呼びかけ募集します。会場では、募集により集まった作品群と、クレスによるインスタレーション作品《I was》を展示します。《I was》では、世代の異なる7組21名のアートに従事する女性たちが、未来から現在へ振り返ることを想像し自身へ投げかけたメッセージを、音と映像で表現します。展覧会を通じて、アーティストから示された創造的な視点を私たちの生活の中で考え、活用することを促します。

開催概要

開催日時 2024年5月10日(金) - 6月9日(日) 10:00-18:00

企画・ディレクション ミハエル・クレス Michael Kress

会場・主催 象の鼻テラス | 連携事業 第8回横浜トリエンナーレ



取材に関するお問い合わせ

象の鼻テラス 大越 E-mail: [press@zounohana.com](mailto:press@zounohana.com) | TEL 045-661-0602 | FAX 045-661-0603  
〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目 | WEB <http://www.zounohana.com>

## プログラムの詳細① ハイヌウェレの彫像

作品のモチーフになっているのはインドネシアに伝わる食物起源神話です。「ハイヌウェレ」と呼ばれた娘が身体から宝物を便として排泄し村人に配っていたところ、気持ち悪がった村人に命を奪われ埋められてしまうが、その遺体から作物が発生し、人々はそれを食べて生活するようになったとして語り継がれています。久保は、作品を構想した2020年、激動の社会情勢の中で自身の関心が根源的、原始的なものへ向かったと話しており、第8回横浜トリエンナーレのテーマと親和性があると考え起用いたしました。

今回作品への理解を深める試みとして、作品の表面を土で覆う仕上げの作業に一般市民の参加を募り、多くの人々との協働により完成させます。また展覧会最終日の29日には、神話学を専門とする國學院大學教授の平藤喜久子を招いたアーティストトークにより作品の理解を深めます。久保は、公共空間を舞台にした作品を多く発表しており、近年の活躍が目覚ましい気鋭の作家です。ぜひご注目ください。

(作品介绍)



《海足》(2018)  
スマートイルミネーション横浜2018 / 象の鼻テラス



《やまいぬ》(2023) / GO FOR KOGEI 2023  
Photo: Akihito Inui(Pillar)

### —アーティストステートメント

ハイヌウェレとはインドネシアの神話に登場する女神で、殺されたその体から食物が生まれたとされます。日本神話におけるオオゲツヒメの逸話のように、同型の神話が世界各地に点在することから、民俗学者のアドルフ・イエンゼンがそれらをまとめて「ハイヌウェレ型神話」と名付けました。この作品を構想していた2020年、世界は新型コロナウイルスの脅威に晒され始め、私はこの社会や人類の未来に不安を感じるようになりました。その不安は自身の関心をより根源的、原始的なものへ向けさせ、世界の古代神話や縄文土器／土偶をはじめとした日本の考古学に創作のヒントを求めました。

作品の表面に使用している“土”は人間の創作活動において最も古い素材の一つであり、世界や人間の始まりを“泥”や“粘土”として表現する神話も多く存在します。異常気象による土砂災害や河川氾濫などの水害が多発している現代においても、“土”は我々に色々なイメージを喚起させる物質と感じます。

仰向けに寝そべる断片化された女性像は、雨や日光や風の影響を受けて時間とともに変化します。作品が作る空間や土の表情を身体で体感していただけたら幸いです。

## アーティスト プロフィール



### 久保寛子 Hiroko Kubo

1987年広島県生まれ。テキサスクリスチャン大学美術修士課程修了。先史芸術や民族芸術、文化人類学の学説のリサーチをベースに、身の回りの素材を用いて彫刻作品を制作する。近年の主な展覧会に「GO FOR KOGEI 物質的想像力と物語の縁起—マテリアル、データ、ファンタジー」(2023年 環水公園、富山県)、「浪漫台三線藝術季」(2023年 台湾)等がある。広島文化新人賞(2022年)、六甲ミーツ・アート公募大賞(2017年)受賞。KAMUKANAZAWA(石川)、おおさか創造千島財団(大阪)、株式会社IZAK(富山)などに大型作品が収蔵されている。

## 関連イベント

### ワークショップ「作品制作を体験しよう！」

本作品は表面を土で塗り固め、表情を生み出しています。土塗り作業と一緒に参加者を募集します。

開催日時 | 2024年4月13日(土) 14:00-16:00

会場 | 象の鼻パーク

参加費 | 無料 定員 | 20

対象 | 子ども～大人までどなたでも

参加方法 | 要予約(定員に達しない場合は当日受付可)

ご予約は [event@zounohana.com](mailto:event@zounohana.com) まで

※汚れてもいい服装でご参加ください。

### アーティストトーク 久保寛子×平藤喜久子

神話、信仰といった土着的なモチーフを作品に投影している久保寛子が、神話学を専門とする平藤喜久子との対談により、自身の作品を深く掘り下げます。

登壇 | 久保寛子、平藤喜久子(國學院大學教授)

開催日時 | 2024年4月29日(月・祝) 15:00-16:30

(14:30開場)

会場 | 象の鼻テラス

参加費 | 無料

## プログラムの詳細② 7 SEEDS -COMMUNICATION UNDER TREES- 展

ポート・ジャーニー・プロジェクトは、世界の港湾都市で創造的活動によるまちづくりに携わるアーティストやディレクターがメンバーとなり、取り組み事例や知見を交換することで、互いの都市の発展に向け糧を得ることを目的に始めました。本展覧会では、世界規模で深刻化する環境問題や社会課題に対し世界が手を取り合い前向きに考える姿勢と、異なる文化的背景をもつアーティストの多様な視点を提示することを目指します。

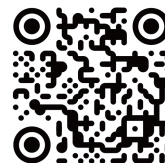
### 展示を構成する2つの作品

#### ① インスタレーション作品《I was》

ミハエル・クレスが横浜で出会った世代の異なる7組21名のアートに従事する女性たちが、未来から現在を振り返った時を想像し自分に向けて語るメッセージを、音と映像で表現。

#### ② 公募作品展

ミハエル・クレスが考える地球を未来に繋ぐ「7つのメソッド」を手掛かりに、「今」できる行動のアイデアを募集します。本プログラムの参加対象は世界中のアーティストですが、ここでいうアーティストは広い視野のアイデアを持つ方と定義しており、学生や市民の方どなたでもご応募頂けます。募集するのは、絵画、ドローイング、イラスト、写真、コラージュ、テキスト、ポスター、カリグラフィーといった、プリントできる表現です。詳細は特設WEBページをご覧ください。



### 「7つのメソッド」

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| SEED 1 CRITICAL SUSTAINABILITY IN ART                         | ● 持続可能な地球のためのアクション            |
| SEED 2 HOLISTIC URBANISM – SOCIAL-CENTERED TRANSFORMATION ART | ● ひとびとの協働で生まれる新しい都市と環境        |
| SEED 3 PARTICIPATION & COLLABORATIVE DEMOCRACY                | ● 参加推奨と協働型民主主義                |
| SEED 4 DIVERSITY, OPEN INCLUSION AND SELF-DETERMINATION       | ● あらゆる人を受け止める力と自己決定力          |
| SEED 5 ARTISTIC AND CULTURAL PARTICIPATION                    | ● 芸術と文化を受け入れる土壌づくり            |
| SEED 6 RIGHT TO LIFELONG LEARNING                             | ● 生涯学習の権利                     |
| SEED 7 UNIVERSAL EMPATHY (EMPATHETIC INTELLIGENCE VS AI)      | ● 普遍性のある共感の土壌作り(共感知能 vs 人工知能) |

関連イベント ※会期中のイベントの最新情報はWEBページをご確認ください。

5月10日(金) | オープニングイベント

5月11日(土) | 7 SEEDS アーティストトーク：登壇：ミハエル・クレス

5月12日(日) | ディレクターズ・ミーティング：ネットワークメンバーが各都市の動向をプレゼンするラウンドトーク

## アーティスト プロフィール



### Michael Kress

Hyper Cultural Passengers ディレクター / アーティスト。1964年、ドイツのミュンヘン生まれ。ハンブルク美術大学でビジュアルコミュニケーションと美術を専攻。コンセプチュアルアーティストである彼の作品は記号や言語がメディアとして自立するきっかけやその瞬間に着目する。1960年代に撮られた映像・映画に見られる空間的広がりについて2004年から調査研究を行う。コンセプチュアルアートを背景に、ビデオ、ドローイング、ライティング、サウンドや写真など様々なメディアを操る。2015年にネットワーク型プロジェクト Hyper Cultural Passengers を開始する。

## PORT JOURNEYS ポート・ジャーニー・プロジェクトについて



象の鼻テラスが推進する国際文化交流プロジェクト。横浜市の姉妹港、連携港を皮切りに、クリエイティブな街づくりを行う世界の港湾都市の担い手、行政、ディレクター、キュレーター、アーティスト、研究者や大学教員などと持続的な相互交流プログラムの構築を通じてより良き発展を目指すことを目的に推進しています。2都市間でアーティストを招聘・派遣し合い成果展示までを行うAIRプログラムや、年に一度、各都市持ち回りでディレクターが一堂に会し直接対話を行なう「ディレクターズミーティング」といった取り組みを通じて、アーティストのみにとどまらない広い意味での文化交流のかたちを探っています。

## 象の鼻テラスについて



Photo: Katsuhiro Ichikawa

象の鼻テラスは、横浜市開港150周年事業として、2009年6月2日に開館しました。横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースとカフェを併設したレストハウス(休憩所)としてつくられ、横浜市の都市ビジョン「文化芸術創造都市」を推進する文化観光交流拠点の一つです。開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、多ジャンルのアートプログラムを開催しています。象の鼻テラスは横浜市の委託により、スパイラル/株式会社ワコールアートセンターが運営しています。